

★ 琴の魅力にせまる！

豊かな心と郷土愛を育む子ども

ふるさとの伝統工芸品を使用した表現活動を通して、琴の魅力について体験的に理解することができる。

※学習指導要領：A表現（2）イ 楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて、演奏することに対応

教材について

宇部市には、明治27年創業の琴の製作所がある。そこでは、全国でも数少ない琴司である親子2人が、厳選された桐材を一つ一つじっくりと伝統の手法で、琴に作り上げている。

ふるさが誇る伝統工芸品に触れることで、感性を磨くとともに、豊かな心と郷土愛を育む授業になる。



展開例

学 習 の 流 れ	単元づくり・授業づくりのポイント
<ul style="list-style-type: none"> ① 琴の弾き方や譜面の読み方を理解する。 ② 「さくらさくら」を複数の奏法で練習する。 ③ 「さくらさくら」を合奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 事前にDVDなどを活用し、琴についての基礎的な知識や地域の伝統工芸品であることなどを教える。 ◇ 様々な奏法を知ることによって、琴で多彩な表現ができることに気付くことができるようにする。 ◇ 学級で心を合わせ、曲を合奏することで、達成感をもたせるようにする。

伝統や文化に関する教育の充実に向けて

② 教育課程への位置付け

3学期に日本の伝統音楽の教材を扱うため、12月までに琴教室を行うよう、年間指導計画に位置付ける。

③ 学習過程の工夫

琴の講師による実演や実技指導、または教科書に記載のない奏法を学ぶことで、興味・関心や学習意欲を高める。

④ 体験的な学習の充実

地域の伝統工芸品の本物に触れることで、学習意欲を喚起する。また、琴の講師から奏法や譜面の読み方を学び、友達と合奏することで、琴の魅力について体験的理解を深める。

⑤ 外部人材の活用

地域から琴の講師を招き、琴教室を実施している。また、地域の琴製作所に琴の運搬やメンテナンス等を委託している。

また、教育委員会が各小学校に実施要項を送付し、日程調整を行う体制を整えている。実施後には、アンケートを教育委員会に提出し、次年度に実施する上での参考としている。

★ 石城山登山学習

生まれ育った土地への愛着をもち、郷土に貢献できる子ども

郷土の有識者を講師として招聘し、郷土の史跡や風土等を学ぶことを通して、ふるさとを愛する心の育成を図る。

教材について

石城山は、光市と田布施町にまたがる標高 362mの山である。国の史跡に指定されている神籠石、重要文化財である石城神社、山姥伝説にまつわる水門など、学ぶことはたくさんある。大和中学校区（塩田地区）にある山ではあるが、塩田地区以外の生徒の登山経験はそれほど多くはない。地域を再発見し、地域を愛する心を育てる上で適した教材であると判断し、石城山登山学習を計画した。



展開例

学 習 の 流 れ	単元づくり・授業づくりのポイント
* 事前学習 ① 出発式 (生徒挨拶、講師の紹介等) ② 登山 ③ 石城山散策 (講師による説明付) ④ 下山 ⑤ 解散式 (生徒挨拶、講師に謝礼等) * 振り返り	◇ 登頂後の散策のため、講師の人数に合わせて、グループを作っておく。 ◇ グループ分けや合流・解散など、小学校と連絡を取り合っておく。 ◇ 講師の先生へのお礼状を書かせることで、感謝の気持ちを表す。

伝統や文化に関する教育の充実に向けて

- ① **学校全体での共通理解**
事前に石城山登山学習計画案を配付し、職員会議で共通理解を図った。
- ② **教育課程への位置付け**
目的確認や班編制、当日の登山学習、事後学習として礼状作成、パソコンを使ったまとめなど、計9時間を総合的な学習の時間として位置付けた。
- ③ **学習過程の工夫**
天候によって実施・順延がしやすいよう、給食時間には下山して学校に到着できるように計画した。
- ⑤ **外部人材の活用**
地域コーディネーターに連絡し、石城山の史跡などについて詳しい知識をもっている人を紹介してもらった。4人の講師とともに登山学習を行い、地域を再発見し、地域を愛する心の育成を図った。
- ⑥ **校種間の連携**
塩田地区にある石城山ということもあり、塩田小6年児童と一緒に登山学習を行った。児童数が5名であったが、塩田小出身の生徒が中心となり、児童生徒の交流を深めることができた。

★ 「ひなもん」づくりで、地域のまちづくりに関わろう

地域の一員としての自覚をもつ子ども

地域の方々の指導を受けながら、地域の伝統工芸“ひなもん”の製作・展示に意欲的に取り組むことで、地域の一員としての自覚を高めるとともに、地域の町おこしの担い手としての意識を醸成する。

教材について

ひなもんは、阿知須地区で製作されるつるし飾りの一つである。2002年に福岡県柳川市のさげもんを参考に製作をスタートし、2005年には、町おこしの一環として商工会の支援の下、第一回ひなもん祭りが始まった。以来、毎年ひなもん祭りが行われ、阿知須地区の伝統的な行事となっており、町中につるされたひなもんには生徒は愛着を感じている。そのひなもんの製作・展示に取り組むことにより、地域のまちづくりへの関心と認識をもち、ふるさとを愛する心が育つと期待される。



展開例

学 習 の 流 れ	単元づくり・授業づくりのポイント
<p>① ひなもんの説明と講師の紹介(1時間) 阿知須地区におけるひなもんの歴史についての説明と、製作の指導を担当する講師(地域の方々)を紹介する。</p> <p>② ひなもんの製作(16時間) 生徒一人ひとりが講師の方から由来や作り方を教わりながら、難易度の低い物から順に、7種類のひなもんを製作する。 最後に工夫して刺繍した飾り付けの敷布にきれいに並べて、作品を完成する。</p> <p>③ 製作・展示のまとめと振り返り(1時間) 製作・展示の感想と振り返り、お世話になった講師の方への礼状を作成する。</p>	<p>◇ 講師をお願いした地域の方々から、ひなもんの歴史について直接説明していただくことで、まちづくりの意欲付けとふるさとを愛する心の育成の動機付けをする。</p> <p>◇ 講師の方から一人ひとりに助言をいただきながら、のりで貼り合わせたり針と糸を使って細かく縫い合わせたりする作業に根気強く取り組ませる。その過程で、この祭りを開催するまちづくりへの思いを感じ取らせ意識化させることで、まちづくりへの協力意識を高める。</p> <p>◇ 文化祭への展示や地域のまちづくり行事への出品を通して、まちづくりにどのように関わることができたかを振り返る。</p>

伝統や文化に関する教育の充実に向けて

<p>① 学校全体での共通理解 ふるさとを愛する心を育てるために、地域文化等の鑑賞や伝統行事の紹介だけでなく、文化を継承しまちづくりに取り組むという点から、地域の方々を講師として招聘したり、逆に地域に出向いて行事に参加したりすることの価値を、共通理解している。</p> <p>② 教育課程への位置付け 文化祭での展示を校内発表の機会にしていること、講師から要望が出たことを踏まえ、文化祭の準備期間に総合的な学習の時間を集中的に位置付けている。</p> <p>④ 体験的な学習の充実・⑤ 外部人材の活用 地域を知るための調べ学習は大切であるが、ふるさとを愛しまちづくりの担い手となる生徒を育成するために、講師としてお招きした地域の方々の教をを請いながら、つるし飾り等を製作する体験的な学習を大切にしたい。なぜならば製作の過程において、地域の歴史や地域への思い、生徒への期待や地域を託す思い等が自然と語られ、生徒の心にしみ入るからである。10名を超す講師の方々により、製作だけでなく体験学習を仕組むことができた。</p>
--

★ 秋掛太鼓体験

郷土の伝統文化の価値を深く理解し、地域への愛情や誇りを育む子ども

美和町の伝統文化を守り受け継いでこられた地域の人々を講師に招き、その強い思いに直接触れることによって、郷土の伝統文化の価値を深く理解するとともに、地域への愛情や誇りを高めることができる。

※学習指導要領：〔第2学年および第3学年〕内容：A表現（2）イ・B鑑賞（1）ウに対応

教材について

美和町秋掛は、周防と安芸の境界にあり、大内時代からたびたび軍勢が「安芸へ駆け」こむ攻略口となっており、秋掛の地名の由来はこの「安芸駆け」が発祥と言われている。「秋掛太鼓」は、秋掛地区で現在まで受け継がれてきた伝統芸能の一つである。特に、「秋掛流打」は、昔の進軍の様子を彷彿させるものである。子どもたちは、秋掛太鼓保存会の方々との交流を通して、地域を愛する心を育んでいる。さらに集団で演奏することで、集団の一員としての自覚を高め、仲間とともに何かをやり遂げる達成感を得ることができる。まさに、地域の担い手としての意識を向上させるのにふさわしい教材である。



展開例

学習の流れ

- ① 授業の始めに、講師の方の伝統文化や地域に対する思いを聞く。
- ② 今日の授業のねらいを全員で共有するとともに、心構えをもつ。
- ③ 実際に活動を行う。
- ④ 課題の残る箇所について、講師が手本を示し、重点的に練習をする。
- ⑤ 練習した成果を、演奏を通すことによって確認する。
- ⑥ 教室で振り返りを行う。

単元づくり・授業づくりのポイント

- ◇ 秋掛太鼓について理解を深めることにより、地域の伝統文化に興味・関心をもつことができるようにする。
- ◇ 経験者をリーダーとして位置付けることにより、生徒の主体的な活動になるようにする。
- ◇ 地域の人々に直接教わることにより、地域を愛する心を育むとともにコミュニケーション能力を高めるようにする。

伝統や文化に関する教育の充実に向けて

① 学校全体での共通理解

秋掛太鼓は音楽の授業のみならず、その他の学校行事でも発表の場が設けられている。行事が近づくと、教員が複数参加し、生徒とともに練習に励む。また、練習には地域や保護者の方も参加されるため、学校・地域・家庭間の信頼関係の構築につながっている。

④ 体験的な学習の充実

未経験者も、講師の先生や経験者の動作を見ながら、まずは挑戦してみるという雰囲気の中で、学習に取り組んでいる。また、学校行事や地域行事で秋掛太鼓を演奏する機会が多いため、1年間を通して繰り返し体験することができ、生徒は秋掛太鼓を身近に感じているようである。

⑤ 外部人材の活用

秋掛地区の伝統を継承するために、地域で活動されている秋掛太鼓保存会の方々を講師として招聘している。連山、流し打ちなど様々な打ち方を教えていただき、秋掛太鼓を通じて、生徒と地域の方々の交流が深まっている。

★ 地域の食材を生かして、調理をしてみよう

地域の文化に関心を持ち、地域を愛する心を育む子ども

地域の食材を生かした献立を作ったり、調理方法を工夫したりする活動を通して、地域の食文化に関心を持ち、地域を愛する子どもを育てる。

※学習指導要領：B 食生活と自立に対応

教材について

下松市では、平成22年度から市内の全小中学校において、地元の食材を使用した給食の実施と食育指導を行うことによって、地域を愛する子どもたちを育てるとともに、さらなる地産地消の推進をめざしている。これまでの取組では、にんにく、たこ、きのこ、もやし、ほうれんそう、レモンなどを取り上げてきた。

生徒は、地域や郷土の料理名は知っているものの、地元の特産物についての認識は低く、特に野菜についてはほとんど知らない状況であるため、地元野菜に焦点をあて、地域産食材についての理解や興味・関心を深める学習を通して、生徒の今後の食生活を豊かにし、地域を愛する心を育てたいと考えた。

展開例

学 習 の 流 れ	単元づくり・授業づくりのポイント
<ul style="list-style-type: none"> ① 地域の食材・特産物について学ぶ。 ② ゲストティーチャーから地域の食文化について学ぶ。 ③ 食事の献立・調理計画を作成する。 ④ 実際に調理する。 ⑤ 振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 特産物マップ等を利用して、地域の特産物を確認する。 ◇ 生産者や地域のボランティアを招き、生産の様子や調理上の工夫について話を聞く。 ◇ ①で扱った食材を使った献立を考える。グループ活動で互いにアドバイスをする。 ◇ 実際の調理は各自で行うので、手順・記録の仕方等について確認する。 ◇ 実践の成果と課題についてまとめる。

伝統や文化に関する教育の充実に向けて

- ① **学校全体での共通理解・② 教育課程への位置付け**
 栄養教諭等と連携し、食育指導や給食指導等との関連を図り、地域食材に関する理解を深めさせる。また、技術・家庭科のみならず、社会科の産業に関する学習や総合的な学習の時間のふるさと学習、委員会活動等と関連付ける。
- ③ **学習過程の工夫**
 生徒の興味や関心を喚起し、課題に対して、計画、実践、評価、改善という一連の学習活動を行うことで、学習に主体的に取り組もうとする意欲と態度を育てたい。また、話し合い活動の場面を設定し、自ら考えたり、説明したりする活動を行うことで、自分の考えをさらに深めるような学び合いを取り入れたい。
- ⑤ **外部人材の活用**
 生産者等の講話により食材に関する理解を深めることができる。また、調理実習を学校で実施する際には、地域の食生活改善推進員等に協力を求める。
- ⑥ **校種間の連携**
 様々な地域食材が豊富にあることから、年度ごとにテーマを変え、小・中学校9年間で継続して取り組むことで、地域の魅力の再発見につながると考えられる。

★ 民泊先周防大島とふるさと和木のよさをまとめよう

ふるさとを再認識する子ども

和木町と周防大島町が行っている施策などについて調べた上で、周防大島での民泊体験に取り組むことを通して、人とのふれあいの中で豊かな心を育み、ふるさとを再認識することができる。

教材について

周防大島町は、山口県東南部に位置する比較的温暖で豊かな美しい自然を有する島である。観光スポットも多く、和木町からも車で1時間程度で訪れることができる場所であることから生徒にとっても親しみのある島である。その島で民泊体験をし、事前の調べ学習、事後のまとめ学習をすることにより、下記のような教育的価値が期待できる。

- ・人と人とのふれあいを通して相手を思いやる気持ちをもつ。
- ・多様な体験を通して豊かな心を育む。
- ・民泊体験、事前学習、事後学習の中で、探究的な学習や協働的な学習により、思考力・判断力・表現力等を育む。



展開例

学習の流れ

- ① 民泊体験の目的・概要説明、調べ学習、まとめ学習の方法について知る。
- ② 班ごとに、和木町と周防大島町が行っている施策について調べ、比較しまとめをする。
- ③ 係別集会をし、民泊への心構えをもつ。
- ④ 生徒57名が、17家庭に分かれて民泊体験をする。
- ⑤ お礼状を作成し、感謝の気持ちを再認識する。
- ⑥ 調べ学習と民泊体験で学んだことをまとめ発表練習をする。
- ⑦ 参観日に民泊体験発表会を行い、互いに評価をする。

単元づくり・授業づくりのポイント

- ◇ 「和木町の人口を増加させるために何をすれば効果があるか」について考え、調べた上で体験をすることの大切さを伝え、興味をもって学習に取り組むことができるようにする。
- ◇ 人口を増加させる年代を「0歳から18歳まで」「19歳から55歳まで」「56歳以上」の三つの区分に分けることで、ポイントを絞って調べることができるよう配慮する。
- ◇ 発表の練習や本番における評価のポイント（声の大きさ・説明の分かりやすさなど）を示すことにより、表現力の向上を意識させる。

伝統や文化に関する教育の充実に向けて

- ① **学校全体での共通理解**
民泊体験以外にも、各教科等において、伝統や文化に関する学習に取り組んでいる。これらの学習を充実させることで、伝統や文化の価値に気付くとともに、地域や社会をよりよくしていこうとする態度や、伝統や文化を尊重し国際社会の平和と発展に寄与することができる生徒の育成につなげたい。
- ④ **体験的な学習の充実**
民泊体験以外にも、保健体育科では柔道、音楽科では箏の実技を通して、体験的な学習の充実を図っている。
- ⑤ **外部人材の活用**
民泊体験以外にも、各教科等において地域の人を外部講師として招聘した学習を行っている。家庭科では、「ゆかた着付け教室」を開き、生徒5～6人に対して1人の講師が丁寧に対応してくださり、着付けの楽しさや日本の文化に親しむ喜びを体感することができている。また、毎月給食の時間に、地域の絵本読み聞かせグループによる本の読み聞かせが行われている。

★ 剣舞（将に東遊せんとして壁に題す）

大島に生まれ育った誇りを持ち、夢に向かって行動するたくましい子ども

大島の偉人である月性の遺した漢詩を元にした詩吟に乗せて剣舞を舞う活動を通して、月性の高い志に触れ、自分も大島に育った一員として、高い志を持ち、仲間とともに努力し続ける姿勢を育む。

※学習指導要領：学校行事〔1〕 儀式的行事に対応

教材について

地域の偉人であり、幕末の勤王僧である月性が遺した有名な漢詩が題材である。詩吟は大島地区住民によって作り上げられたものである。

すでに30年前から大島中学校の立志式および体育祭にて中学2年生が舞うことが伝統になっており、それが大島地区住民に広く知られている。14歳となる立志の年に際して、立志に関する漢詩の詩吟や剣舞を体験することで、自分を鼓舞することができる。



展開例

学習の流れ

- ① 中学2年生の夏休みから、剣舞の練習を開始する。
- ② 9月の体育祭で、剣舞を保護者や地域住民に披露する。
- ③ 2月の立志式で、再び剣舞を保護者や地域住民及び小学校6年生に披露する。

単元づくり・授業づくりのポイント

- ◇ 小学校では木刀で剣舞を舞っているが、中学校では模擬刀で剣舞を舞うため、練習を重ねる必要がある。
- ◇ 指導者は地域住民であり、剣舞を大島地区の伝統として伝える重要性が生徒たちに伝わっている。
- ◇ うずしお協育ネットが立志式にて食事を振る舞い、多くの地域住民が中学生の剣舞を鑑賞することになっている。

伝統や文化に関する教育の充実に向けて

- ① **学校全体での共通理解**
中学校2年生になったら、全員が模擬刀による剣舞を舞うことができるようにするということを目標として、教職員全体で共通理解を図っている。大島中学校の卒業生は必ず剣舞を舞うことができるということが、大島地区の共通認識になっている。
- ② **教育課程への位置付け**
時間的な制約があるが、特別活動として位置付けている。
- ③ **学習過程の工夫**
一人ひとりの習熟に応じた指導を行っている。地域の指導者（剣舞の保存会関係者）が複数入ってくださるおかげで、ポイントをしっかりと押さえた指導になっている。
- ④ **体験的な学習の充実**
実際の剣舞を全員が舞うことを、原則としている。また、校内にとどめるのではなく、保護者や地域住民の前で披露することを前提として練習に取り組ませている。
- ⑤ **外部人材の活用**
剣舞の保存会の方々に指導を依頼するだけでなく、立志式ではうずしお協育ネットの皆さんに豚汁を作ってください、餅つきをしてもらおうようにしている。
- ⑥ **校種間の連携**
小学校では月性の漢詩を朗唱しており、剣舞も木剣で練習しているため、小中一貫の取組となっている。小学校6年生を立志式に招待し、剣舞の見学をした後に、豚汁やお餅などを中学生や地域住民と一緒に食べて、小中連携を深めるようにしている。

★ 和田学のすすめ

郷土を好きになり、郷土への誇りと愛着をもつ子ども

地域に残る「和田らしさ」を調査し将来へ伝える活動や、「和田」について深く知る活動を通して、故郷「和田」を好きになり、郷土への誇りと愛着をもつ生徒を育成する。

教材について

三作神楽は、和田地域の民俗芸能であり、「神事としての神楽舞の味わいと、古いしきたりを十分に伝えているもの」として、平成12年に国の重要無形民俗文化財に指定された。卯年と酉年の式年祭では、約9時間かけて23ある全ての舞いが披露されている。

和田地域には、文化・産業が多く存在するが、近年、後継者不足や建造物の風化等、「今、調べ、伝えておかないと知る人がいなくなる」という危機感が地域に生まれている。そこで、生徒の目線による「和田」の再発見をおこなうこととし、その学びを「和田学」と名付けた。地域に残る「和田らしさ」を調査し将来へ伝えること、「和田」について知ることで、より「和田」を好きになることをねらいとしている。



三作神楽の発表（第5回中国・四国地区へき地教育研究大会山口大会にて）

展開例

学習の流れ

- ① 地域調査の実施
 - ・和田地区への関心をもつ。
 - ・フィールドワークで得た情報を整理する。
 - ・整理した情報を発信する。
- ② 体験学習の実施
 - ・三作神楽の伝承に関する活動
 - ・高瀬味噌の醸造に関する活動

単元づくり・授業づくりのポイント

- ◇ 生徒自身で調査依頼等の交渉を行うとともに、全員がフィールドワークを行えるようにする。
- ◇ 和田小学校と連携し、三作神楽の伝承を軸にした体験学習を行う。
- ◇ 形だけの伝承にならないよう、歴史や地域の人々の思いも併せて伝承されるよう工夫する。

伝統や文化に関する教育の充実に向けて

- ① **学校全体での共通理解**
三作神楽においては、文化祭等の学校行事で発表すること、技量が上達すれば対外的な行事の場でも披露すること等、生徒が文化を伝承することに充実感を味わえるよう学校全体で取り組んだ。また、発表することを通して保護者や地域へ情報発信をした。
- ③ **学習過程の工夫**
フィールドワークを取り入れることで、地域とより密接な学習が行えるよう工夫した。特に本校区は、学校活動に協力的であり、聞き取り調査をスムーズに行うことができた。また、調査した事項をなるべくデジタル化し、保存することで次年度へつながるよう工夫した。
- ④ **体験的な学習の充実**
三作神楽の伝承では、芸能を伝承している方が実際に舞いを舞ったり、楽を演奏してもらったりする機会を計画的に取り入れた。
- ⑤ **外部人材の活用**
コミュニティ・スクールの仕組みを活用することで、学校のねらいや生徒の実態に即した講師が紹介された。特に無形文化財の伝承については、正しく伝承ができるよう配慮した。
- ⑥ **校種間の連携**
三作神楽の伝承を基盤とした小中連携教育が推進できるよう、和田地区での義務教育9年間を見通した、和田学の連携表をつくり、小・中学校の共通理解を図った。

★ ふるさと大道を再発見しよう

ふるさとの伝統や文化を継承し発展させようとする子ども

地域の歴史や伝統文化に触れる活動を通して、ふるさと大道への誇りと愛着をいただき、伝統や文化を継承し発展させようとする意欲や態度をもつことができる。

教材について

大道地域には、天下の奇祭と称される「笑い講」をはじめ、「国府の節」や「旦の十二の舞」などの踊りや舞い、校区内の三地域に伝わる神楽や人形浄瑠璃など、多くの神事や伝統芸能が古くから伝わっている。歴史的にも古く、縄文時代からの遺跡やいくつもの古墳が発見され、現在も多くの社寺や文化財が残されている。それぞれの神事や伝統芸能には、保存会が発足し、地域の人々によって大切に受け継がれている。

地域の歴史や伝統文化に触れることで、ふるさとのすばらしさを再認識するとともに、伝統文化を継承している人々に接し、自分自身も継承し発展させる地域の担い手であることを自覚できる教材である。



展開例

学習の流れ	単元づくり・授業づくりのポイント
<ol style="list-style-type: none"> ① 知る 専門家や地域講師の講話から、大道地域の歴史や伝統文化を学ぶ。 ② 調べる・体験する グループに分かれ、現地調査、講師招聘、体験活動等を行う。（題材例「笑い講」「人形浄瑠璃」「神楽」「遺跡・古墳」等） ③ まとめる 調査内容や体験したことをまとめる。 ④ 発表する 文化祭、ふるさと学習発表会で地域や保護者に向けて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 県埋蔵文化財センター職員、地域の歴史研究者から話を聞き、大道地域にある学習素材を再認識し、活動への意欲を高める。 ◇ 地域の学習材の中から、生徒の興味・関心に基づく題材ごとに小グループを編成し、現地調査や講師の招聘、体験等による探究活動を行う。 ◇ 発表会に向けて、調査した内容や体験したことをまとめる。 ◇ プレゼンテーションソフトを使って原稿を作成し、実演等を交えながら発表する。また、発表をもとに相互評価を行う。

伝統や文化に関する教育の充実に向けて

- ① **学校全体での共通理解**
大道小学校・大道中学校教職員、学校運営協議会委員、地域協育ネット「スマイルネット大道」と連携し、活動の意義や必要性、地域人材等の情報を共有する。
- ② **教育課程への位置付け**
道徳における「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」、社会科の歴史的分野との関連を図る。
- ④ **体験的な学習の充実**
地域の遺跡から出土した本物の土器等を見て触れたり、古墳や社寺に出向いて実際に見たり、話を聞いたりする等、実感を伴った活動を重視する。人形浄瑠璃については、人形遣いや口上を体験し、文化祭で保存会の方とともに演目を披露する。
- ⑤ **外部人材の活用**
県埋蔵文化財センター職員、地域の歴史研究者、各伝統芸能の保存会代表者による講話や質疑応答、体験活動等を行う。生徒が地域の社寺等に出向き、聞き取りによる調査を行う。
- ⑥ **校種間の連携**
大道小学校での「お笑い集会」「大道人形浄瑠璃発表会」の深化・充実を図る。

★ 注連縄飾りづくり

郷里の一員であることの誇りを持ち、ふるさとを愛する心をもつ子ども

日本の伝統的風物のよさを知り、自身もその継承者たらしとする自覚を養う。また、地域の高齢者と製作したものを配布することを通して、地域の一員であることへの誇りを持ち、ふるさとに貢献し、愛する心を培う。

教材について

正月に飾る注連縄飾りには、様々ないわれがある。それらのいわれを知り、それを自作することで、日本の伝統文化に対する敬愛と継承者としての自覚を育てることができる。

また、地域住民の協力・指導を得て、材料の収集から製作、配付を行い、さらに地域住民との交流の場をつくることにより、郷里への感謝と誇りをもたせる。



展開例

学習の流れ	単元づくり・授業づくりのポイント
<ol style="list-style-type: none"> ① 注連縄飾りのいわれについて ② 注連縄製作について ③ 材料の調達 ④ 藁選り ⑤ 注連縄づくり ⑥ 感謝状の作成 ⑦ 地域の高齢者への配付 ⑧ 学習の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 民俗学的な意味や、構成するそれぞれの部位に込められた願いなどを調べる。 ◇ 製作工程等を知ることによって必要な材料を調達する計画を立てる。 ◇ 地域の方々を講師に、交流をしながら藁選り、注連縄の製作をする。 ◇ 地域の高齢者を中心に、完成品の配付計画を立てる。 ◇ 製作に関わった方々へ感謝状を作る。

伝統や文化に関する教育の充実に向けて

- ① **学校全体での共通理解**
製作や高齢者宅への配付を通して、地域の方との交流や地域貢献の場を創出し、感謝の気持ちやふるさとへの愛情を育てることができる。このことは、生徒の大きな成長の機会になる。これらの趣旨を全教職員で共有し、作業分担し、指導に当たる。
- ③ **学習過程の工夫**
学習の流れ（座学と体験活動、振り返り）と製作の流れ（地域との交流機会の確保、縦割り班活動）を工夫することで、学習効果をより高める。
- ④ **体験的な学習の充実**
使われる材料一つ一つに込められた思いや注連縄の歴史的意義、縄の作り方等を事前に学習した上で、製作をすることにより、民俗学の知識を体験的に習得できる機会となる。また、完成までの全ての過程に生徒が関わることで、単なる体験で終わらせず、伝統文化に対する理解を促進できる。
- ⑤ **外部人材の活用**
地元老人クラブから、製作の指導にあたっての人材を派遣していただき、生徒との良好な交流の機会になっている。また、藁やウラジロ、葉ミカン、ユズリハなどの材料調達は、全て地域の方々に協力をいただいている。

★ 郷土に伝わる昔話を紙芝居にしよう

郷土への愛着や伝統文化の継承への意欲を高める子ども

郷土に伝わる昔話の紙芝居を作成し、発表することを通して、郷土への愛着や伝統文化の継承への意欲をもたせる。

教材について

山口県の北部にあって、東は島根県益田市、南は津和野町に隣接する旧田万川町(現萩市)には、たくさんの昔話や史実にもとづいた話が口伝で伝えられている。今回、田万川ふるさと協議会からの依頼により昔話を紙芝居にすることとなった。紙芝居にすることで、子どもたちだけでなく、昔話を知らない多くの住民にも広く周知することができる。また、昔話をじっくり味わうことは、祖先の心に触れることであり、「ふるさとを愛する心の育成」や「地域の担い手としての意識の高揚」を図ることができる。



展開例

学習の流れ

- ① どの昔話を紙芝居にするかを話し合う。
- ② 段落を区切りながら場面設定をし、何場面の紙芝居にするのかを決める。
- ③ 紙芝居の制作活動をする。
時代背景や登場人物を検討しながら、場面ごとの下描き→本描き→彩色→仕上げをする。
- ④ 完成作品と文章を合わせ、ラミネートする。
- ⑤ 発表のための準備をする。場面毎の読み合わせ確認と朗読練習をする。
- ⑥ 昔話に出てくる場所を訪れる。
- ⑦ 文化祭で発表する。(展示とステージ発表)

単元づくり・授業づくりのポイント

- ◇ 作品集を読み、紙芝居にする作品を話し合っ
て決定する。
- ◇ 場面ごとの担当者を決め、作業を分担するこ
とで、自らの作業に責任をもたせる。
- ◇ 全員で制作活動の流れを確認し、完成までの
時間配分を考えながら、見通しをもって自分の
制作活動ができるようにする。
※ 毎時間のめあてと課題設定、振り返りを
ワークシートに記入することで、モチベー
ションを維持できるようにする。
- ◇ 現在まで残っている実物を見ることで、昔話
の内容について共感させる。また、校外活動と
なるため、禁止事項や安全等への配慮を十分事
前指導する。

伝統や文化に関する教育の充実に向けて

- ① **学校全体での共通理解**
文化祭では、縦割り班による活動で「まちづくり部」の取組として、ふるさとの昔話の紙芝居制作に取り組む。
- ② **教育課程への位置付け**
総合的な学習の時間として位置付ける。
- ③ **学習過程の工夫**
毎時間の学習シートを活用し、完成・発表までの全体の見通しをもたせることにより、毎時間の学習活動を充実させる。
- ④ **体験的な学習の充実**
言い伝えられている昔話の現地取材に行くことで、ふるさとの再発見や伝承につなげる。

★ ふるさとの偉人・岡 十郎

ふるさとへの興味や関心をもち、ふるさとを誇りに思う子ども

自分たちの地域の出身人物を調べる学習を通して、生徒のふるさとへの興味や関心を高め、ふるさとを誇りに思う心を育てる。

教材について

かつて、日本海には冬になると多くの鯨が姿を見せており、長門市は捕鯨の一大拠点であった。今回の学習で取り上げた岡十郎は、阿武町奈古の出身で、日本近代捕鯨の先駆者の一人と言われている。ノルウェー式捕鯨に着目し、自らノルウェーに出向いて捕鯨方法について学ぶなど、日本の捕鯨発展のために尽くした人物である。

生徒が、自分たちの地域の偉人について調査することにより、地域と生徒を結び付けることができると考えた。



展開例

学習の流れ

- ① 地域調査のコースやテーマを設定する。
- ② テーマに基づき、資料収集やインタビューなどを行って調査を進める。
- ③ 調査結果を整理し、発表の準備をする。
- ④ 文化祭のステージで発表する。

単元づくり・授業づくりのポイント

- ◇ テーマを設定するまでにどのようなことを行うかを示し、見通しをもって活動することができるように促す。
- ◇ 資料については、できるだけ幅広く収集するよう助言する。
- ◇ 発表原稿の作成や、効果的なプレゼンテーションソフトの使い方、発表の仕方の工夫について、具体的に指導する。

伝統や文化に関する教育の充実に向けて

① 学校全体での共通理解

平成 29 年度文化祭は、「FOR ONE PURPOSE ～地域を盛り上げよう～」をスローガンに取り組んだ。各コースや展示作品の内容として、それぞれ地域を意識した活動や製作を行った。

② 教育課程への位置付け

地域調査コースでは、ふるさと阿武町出身の岡十郎について調べた。総合的な学習の時間に位置付け、20 時間の中で、テーマ設定から発表までを行った。

⑤ 外部人材の活用

テーマを1 学期中に設定し、夏休みを利用して、萩博物館を利用したり、地域の方にインタビューしたりした。単元の学習においては、地域の方々と交流する場を設定し、生徒がふるさとの伝統や文化について考えていけるように工夫した。

★ かるた学習

伝統や文化を大切に、地域のよさを知り、地域の活性化に貢献できる子ども

百人一首を使ったかるた学習に取り組むことを通して、集中力・忍耐力・記憶力・表現力を高めるとともに、地域のよさを知り、地域の活性化に貢献しようとする心を育む。

※学習指導要領：学校行事（2）文化的行事 に対応

教材について

竜王校区は、もともと競技かるたが盛んな地域である。本校も以前はかるたクラブをつくって熱心に取り組んでいたことがあり、歴代かるたクイーンを二人も輩出した伝統校である。しかし現在は、かるたへの関心は薄れ、かるたと触れあう機会もほとんどない。



本校生徒は、集中力・忍耐力などの精神面や学力面に課題があり、解決を図る必要があった。折しも競技かるたを扱ったアニメが映画化され、全国的にかるたが注目され始めていたこともあり、かるた学習を全校体制で取り組むことによって、これらの課題解決につなげていこうと考えた。

生徒にとっては話題性があるとともに、地域にとっても慣れ親しんでいたものであるため、かるた学習を始めることへの関心と期待があった。かるたクイーンの二人にも協力をしていただけのため、地域の活性化にもつなげることのできる教材である。

展開例

学習の流れ	単元づくり・授業づくりのポイント
<p>① 百人一首の暗記</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日一首ずつ、全校生徒と教職員で暗記する。 <p>② 百人一首検定試験の実施</p> <p>③ 国語科の教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的仮名遣いなどの学習をする。 <p>④ 全校かるた大会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の成果の場として、対戦する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ かるた学習をする意義を明確にし、自己決定を促すため、オリエンテーションを実施する。 ◇ 朝の会、終わりの会で唱和する。教室、廊下の短冊黒板に今日の一首を掲示し、意識を高める。 ◇ 十首終えるごとに検定試験を行い、学習の状況を確認する。 ◇ 合格者の氏名を廊下に掲示することで、生徒のやる気を育む。 ◇ 国語科との連携を図り、古文の学習に活用する。 ◇ 公式ルールに従い、静と動のけじめと礼儀の大切さを学習する。

伝統や文化に関する教育の充実に向けて

① 学校全体での共通理解

全校体制で共通の取組をすることの大切さと、かるたを通して生徒に身に付けさせたい力を共有することが重要である。校務分掌にかるた担当を位置付け、全てのクラスで同一步調で推進している。

⑤ 外部人材の活用

歴代かるたクイーンからの指導や支援を有効活用しながら、今後も継続していく取組となるように仕組んでいる。

⑥ 校種間の連携

近隣の小野田高校にはかるた部があり、今後、「かるたの町 山陽小野田」をめざして、小・中・高の校種間連携を進めることが期待される。

★ 僕らの Coloring ～金子みすゞの詩にふれて～

地域の活性化と地域で活動することの意義を考える子ども

金子みすゞの詩の世界を表現し、発信する活動を通して、自らの感性を磨くとともに、地域の方々と交流しながら多面的・多角的なものの捉え方を身に付け、地域の活性化と地域で活動することの意義を考えることができる。

教材について

カルチャー部は、ボランティア活動を中心とした校内、校外活動を積極的に行い、学校や地域に貢献できる活動をめざしている。地域の方や異世代の方との交流を図り、主体的に活動したり、対話をしたりするなど、体験活動を多く取り入れ、個人の伸長をめざす部活動である。

部としての活動の一環として、郷土の詩人・金子みすゞの詩を取り上げ、自分の夢や目標を一番好きな詩とコラボレーションさせることにより、新しいみすゞの詩の世界観を表現する活動に取り組んでいる。

この活動では、地域のデザイナーの方から作品作りを学ぶことと、詩を通して地域活動について学ぶことができ、自己表現力、自己有用感の向上や、地域のよさや課題の発見ができ、多面的・多角的なものの見方ができるようになる。



展開例

学習の流れ

- ① 512編の詩を、季節ごとに分類し、整理する。
- ② 512編の中から一人3編の詩を選択し、近代詩文書または自由書体で書写する。
- ③ 台紙に自分の夢や目標を書き、その上に、②で書写した詩を貼り付ける。
- ④ 作品に込めた自分の思いを語り合いながら、デザインを完成させる。

単元づくり・授業づくりのポイント

- ◇ 詩をデータとして打ち込むチームと、それらを分類するチームに分かれて活動する。
- ◇ 自分で書くことが難しい場合は、教師が手本を示す。
- ◇ 全員の作品が完成したら、記入した夢や目標について意見交流し、地域在住のデザイナーの方の講話を聞く。

伝統や文化に関する教育の充実に向けて

④ 体験的な学習の充実

カルチャー部の活動以外にも、地域活性化のためのアンケート調査や、語ろう会の開催、仙崎みすゞ七夕笹祭のボランティア活動を行うなど、体験的な活動を積極的に取り入れている。

⑤ 外部人材の活用

僕らの Coloring 作成や金子みすゞの詩の世界を知るための活動を行う際には、地域在住のデザイナーの方を招聘し、活動に取り組んでいる。また、地元にある金子みすゞ記念館を不定期に訪問し、学芸員の方からの話や新しい情報を知る活動も行っている。

⑥ 校種間の連携

大津緑洋高等学校大津校舎の生徒会と連携しながら、地域イベントボランティアに参加することで、相互の交流を図っている。

